

私立大学研究ブランディング事業

29年度の進捗状況

学校法人番号	301001	学校法人名	高野山学園		
大学名	高野山大学				
事業名	「高野山アーカイブ」の構築と世界遺産高野山の生成・発展・継承に関する密教学的的研究				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	200人
参画組織	高野山大学(文学部・大学院文学研究科・高野山大学図書館・密教文化研究所)				
事業概要	高野山大学は創立130周年の伝統を有する密教の最高学府である。図書館、密教文化研究所では、多くの密教に関する貴重書が保管されており、世界に数少ない密教の教育・研究機関と言える。本学の過去の歴史的資料や、高野山文化圏に関わる多くの資料をアーカイブ化し、連続と続く1200年の密教の遺産を次世代へ繋いでいくことは、大きな価値を有すると考えられる。				
①事業目的	本研究の目的は、①真言密教の研究への新たな研究ツールの提供、②高野山に関する密教学研究の深化・促進(研究者のみならず、内外の一般ユーザー、地域住民、内外の観光客)③国際観光都市としての地域の再発見である。①②③を通じて、世界遺産である高野山全体のブランド力を高めることを目指している。				
②29年度の実施目標及び実施計画	<p>【実施目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■10月 アーカイブシステムカスタマイズ インターフェースデザイン完了 ■写本画像デジタル化 「秘密曼荼羅十住心論」「秘密曼荼羅大阿闍梨耶付法傳」など。高野山大学図書館蔵の写本から開始する。 <p>【実施計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■10月 アーカイブシステムカスタマイズ インターフェースデザイン完了 ■12月 地図アプリ試験公開 ■写本画像デジタル化 高野山大学図書館蔵の写本から開始する。 ■年間計画 弘法大師全集 「平均620ページ」目標 ■広報サイト構築 				
③29年度の事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ■「高野山アーカイブプロジェクト」HPに「28年度の進捗状況」を公開(29年5月31日)。 ■「高野山アーカイブプロジェクト」HP内に「高野山アーカイブ」ページを新設し、検索機能などの試験運用を開始。第一弾のデジタル公開資料として高野山大学図書館所蔵の宇多法皇宸筆「胎蔵秘密略大軌」の画像および翻刻テキストを掲載。プレスリリース及び一般公開(29年8月1日)。 ※掲載紙:毎日新聞(和歌山県版)、高野山時報、六大新報、中外日報、仏教タイムスなど。 ■シンポジウム「新時代への高野山史研究」を高野山大学松下講堂黎明館にて開催(29年11月25日)。 ※参加人数:100名 ■シンポジウムにて地図アプリに向けた試案を提示。 ■高野町(教育委員会・産業観光課)・和歌山県世界遺産センターと「高野山アーカイブ」を活用した地域連携体制について協議を開始(29年12月～)。 ■「高野山アーカイブ」の試験運用ページを一新し、アーカイブシステムカスタマイズ 初期インターフェースデザインを構築。一般公開を開始(30年3月15日)。 初期のカテゴリとして、①「弘法大師空海の著作」、②「高野山の歴史と信仰」、③「真言密教の世界」、④「高野山大学の密教研究」を設定。 ■OCRによる「定本弘法大師全集」のデータ化および高野山大学図書館所蔵の資料のデジタル化 ■29年度の進捗状況について、内部評価および外部評価を実施(30年3月)。 				

④-1 29年度の自己点検・評価及び外部評価の結果
【自己点検・評価】

1、上記29年度の目標・計画に即して、以下の活動を評価する。
 i、「アーカイブシステムカスタマイズ、インターフェイスデザイン完了」に関しては、「高野山アーカイブプロジェクト」ホームページに高野山アーカイブのページが新設され、基本的に目標・計画は実現されたと評価できる。
 ii、「地図アプリの公開」に関しては、平成29年11月25日に開催された「新時代の高野山史研究」シンポジウムにおいて試案が提示された。完成には至っていないものの、計画は遂行されていると認められる。
 iii、「写本画像のデジタル化」及び「定本弘法大師全集」デジタル化に関しては、OCRによる「定本弘法大師全集」のデジタル化が進められている。
 iv、「広報サイトの構築」については、「高野山アーカイブ」の試験運用ページを一新し、初期カテゴリとして「弘法大師空海の著作」「高野山の歴史と信仰」「真言密教の世界」「高野山大学の密教研究」が設定され、一定の進捗が認められる。

2、総評
 年度実施目標並びに実施計画に照らして、平成29年度の事業内容を振り返ると、大体において当初の目標・計画に沿った活動が行われ、一定の成果を上げていると評価できる。昨年度から持ち越されていたシンポジウムの実施も平成29年11月に実現している。地図アプリの公開、また写本画像のデジタル化に関しては、予定の成果を上げていることが確認できなかったが、次年度計画に盛り込み、ある程度の遅れを含みつつも、全体としての事業の遂行を図ることが望まれる。

④-2 29年度の自己点検・評価及び外部評価の結果
【外部評価】

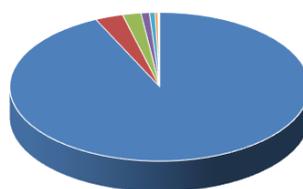
1. プロジェクトへの期待度
 ■古文書や古絵図など、貴重な歴史的資料がインターネット上で誰でも自由に閲覧できるようになれば、地域の資産として重要な意味を持ち、世界遺産高野山のアピール・観光客誘致・地域住民による高野山の魅力再発見に繋がるものと期待する(高野町役場)。
 ■「定本弘法大師全集」のより正確な再構築が大いに期待される(外部有識者A)。
 ■日本の政治は高野山と深く関係しており、そこで世界的な美術・建築が発展した。高野山大学はこれら多様な面をデータ化するために良い立ち位置にいる。このアーカイブは世界的に影響を及ぼす無限の可能性を持つ。10世紀に作成された「胎蔵秘密略大軌」のテキストが含まれたが、一般の学者にとって、このような貴重な資料を見ることが困難であった。それを可能にした高野山大学のチームは賞賛されるであろう(外部有識者B)。

2. 成果の測定方法
 ■公開データがインターネット上でどのように利活用されているかを探ることができれば、その件数や転載回数等により測定できるのではないかと(高野町役場)。

3. 助言等
 ■このプロジェクトの大きな目的として、以下の点があるのではないかと。
 ●定本「弘法大師全集」の高精度化(定本の再校訂作業)。
 ●江戸期までの弘法大師研究にみられるような、弘法大師著とされる資料の積極的引用。
 ●高野版、京・大坂の町版など、密教関係の出版物調査。
 ●時代に即応した宗学の再興。
 ●高野山学との積極的なジョイント(外部有識者A)。
 ■GPS機能付きアプリがリリースされれば、アプリを使った旅行者の満足度向上が図られ、SNS等の情報発信による観光客増加に繋がると期待する(高野町役場)。
 ■高野山全体のブランド力強化を目的とするならば、近現代の民俗的な低いハードルが必要ではないかと思う(高野山霊宝館)。
 ■高野山の歴史を研究する未来の学者のため、高野山アーカイブが多種多様な貴重資料を保守することを期待する。アーカイブにおけるデジタルの特質は、世界中への情報拡散にあり、興味を持った研究者が広範囲で利用可能に出来ることにある(外部有識者B)。

⑤29年度の補助金の使用状況

経常費補助金 内訳



- 委託費
- 消耗品費
- 旅費交通費
- 光熱費
- 図書資産
- 会議交際費
- 消耗図書費
- 印刷製本費
- その他

委託費 93%
 消耗品費 3%
 旅費交通費 2%
 光熱費 0.9%
 図書資産 0.6%
 会議交際費 0.3%
 消耗図書費 0.1%
 印刷製本費 0.1%
 その他 0.0%